

# ボタニカルニュース ～牧野公園情報～

## ◇1月に見頃のお花など♪

- A. バイカオウレン (梅花黄蓮)  
キンポウゲ科オウレン属。  
牧野博士がこよなく愛したお花。  
花：1月～3月頃。
- B. セリバオウレン (芹葉黄蓮)  
キンポウゲ科オウレン属。  
牧野博士命名種。  
花：2月～3月頃。
- C. スイセン (水仙)  
ヒガンバナ科スイセン属。  
花：12月～2月頃。
- D. マンリョウ (万両)  
サクラソウ科ヤブコウジ属。  
実：11月～1月頃。
- E. センリョウ (千両)  
センリョウ科センリョウ属。  
牧野博士命名種。  
実：11月～1月頃。



◇あけましておめでとござります！  
今年も牧野公園、そして「ボタニカルニュース・まちまるごと植物園」をよろしく願います！  
さて、バイカオウレンの季節になりました!! 11月下旬からぼちぼちと咲き始めましたが、1月下旬から3月上旬が一番綺麗な時期です! 牧野公園手前の金峰神社(牧野博士が幼少期によく遊んでいたところ)でも見る事ができます。  
博士がこよなく愛したお花であるバイカオウレンが一面に広がる景色に目が行きがちですが、すぐ隣で咲いているセリバオウレンは牧野博士命名種♪ぜひ注目してみてください!  
そのほか、お正月の縁起物としても使用される、マンリョウ、センリョウ、なども各所で見る事ができます。  
寒さに負けず遊びに来てください!

# まちまるごと植物園 ～まちの植物情報～

◆西山地区のバイカオウレン お手入れ♪  
西山地区にある、はなもりC・LOVEMENバーさんの裏山で、バイカオウレンのお手入れが行われました。口伝てで呼び掛けをしたところ、町内外から老若男女20名以上の方が参加あり、遠方からでは、直前に交流があった三原村の方も来ていただきました! 除草や枯葉・小枝を取り除くなど、開花に向けて準備を行い、作業後には、シシ汁を食べながら楽しいひと時を過ごしました☆  
また、西山地区では、地域の有志によってケイトウなどを植える活動が30年以上続けられています。「けいとう街道」と呼ばれ、秋には道沿いがケイトウでいっぱい♪「今年はいよいよ!」と嬉しそうですが、充分見ごたえのある景色でした! 「来年は土壌改良もしたい」ともお話されていました。  
◆秋を見つけよう!  
佐川小学校1年生が「秋を探しに」牧野公園に来てくれました。  
授業で作る作品の材料を拾うために散策をしながら頂上へ。道中、「この花は何? あれは?」「これ学校にもある!」と興味津々♪落ち葉や小枝、ドングリなど袋いっぱい集めて、笑顔いっぱい帰って行きました☆  
素敵な作品ができたかな? また来てくださいね!



# 青山文庫だより

## 家臣たちの身分階層について②

田中光頭(みつあき)の生家である浜田家を事例として、前回ご紹介した佐川深尾家の家臣たちの身分階層(構造)に関する新定義について、より具体的に説明したいと思います。

みなさんよくご存じの田中光頭ですが、本名は浜田といえます。この浜田家、先祖は戦国時代に長宗我部氏に仕える武士であったようで、江戸時代になり山内家が入国すると、加茂村に移住し、後に瑞成村へ移住したそうです。この時点では「浪人(ろうじん)もしくは百姓」という身分になります。

3代佐川領主・深尾重照の時代に、浜田家の初代となる笠之丞の妻が乳母として召し出され、その縁で、浜田家は深尾家の家臣となります。この時点では「陪臣(はいしん)」で、恐らくは足軽などの下士であったのではないかと推測しています。

時代が進み、田中の祖父にあたる6代・宅右衛門は、御勝手役兼御勘定役をつとめていた事がわかっています。また、分限帳(ぶんげんちょう)には30石もらっていた事が掲載されています。下士については、「1〜3人扶持と切米の給料をもらい、雑務をしていた」といいますので、「陪臣(下士)茶道・歩行・用人・足軽」という定義に矛盾します。

また、田中は自身の生家について「深尾家の新小姓で、佐川では士格であるが高知では士格では

なかった」と回想しています。

つまり、幕末期の浜田家は、深尾家が独自に雇用した「陪臣」であるが、「新小姓(扈從格)」という士格の身分であったという事になります。実は、3代領主の時代に、それまで「士格II 50石以上」としていたものを、「士格II 30石以上」と改めています。そのため、給料からみても幕末期の浜田家は「士格」という事になります。

ここで、前号で紹介した身分の多重構造を前提に考えると、浜田家は、a 根底の区別による身分では「陪臣」であり、b 実際の区別による身分によると「士格の新小姓」という事になります。これで矛盾は解消しました。

このような身分の多重構造は、土佐藩内部でも存在していますので、佐川深尾家に限った事ではありません。土佐藩内の序列に準じる独自の序列が佐川領内に存在していた事は、佐川領が土佐藩から半ば独立した状態で経営されていた証の一つになるかもしれません。(青山文庫 藤田有紀)

### 展示案内

○特別展「佐川領の終焉」

○秋の企画展「志士たちの遺墨」

10月5日(土)〜1月13日(月・祝)

※1月14日(火)〜17日(金)は展示替のため臨時休館します。

# 文芸

## 川柳

躓いた 石の根っこが 深すぎる

先行が 不安で二度も 顔洗う

煩いが 聞けば落ちつく 妻の愚痴

和 田 憲一

たるむ頬 僅かの違いを 口惜しがり

それがどうしたとちやぶ台返して 桜見る

三戸岡 浄 (ペンネーム)

## 俳句

冬に入る 日や早朝の ランニング

味元 佐知子

## 短歌

かたはらを 無表情に 過ぎゆく「時」

せめて停めむ 言の葉により

三戸岡 浄 (ペンネーム)

かくれんぼ振り返れば誰も居なく

なり寂しさかみしめ帰る夕焼け

夜も更けて寒さに耐える

つわぶきは雪を被りて又冬の中

福寿草 (ペンネーム)

## 川柳・俳句・短歌を広報さかわに掲載してみませんか?

※2月号への掲載を希望される方は2月1日(土)まで  
投稿方法:氏名・住所・電話番号と、川柳・俳句・短歌のいずれの部門かをご記入のうえ封書やはがき、ファックスにてお送りください。応募多数の場合は抽選により掲載します。